

令和 7 年度第 1 回堺市中区政策会議 会議録

日時：令和 7 年 5 月 27 日（火曜） 19 時 00 分から 21 時 00 分まで

場所：堺市 中区役所 4 階 大会議室

出席者：【構成員】（敬称略）伊藤久美子、今西千晶、太田佳世、金澤正巳、澤本美奈子、
田重田勝一郎、巽真理子、谷村修、仲氏昌平、松居勇、森田裕之、桂恵輔、
小西響（以上 13 人出席）

【事務局】伊藤修士（中区長）、山田美佐（副区長）、名越賢治（部理事（深井駅
周辺地域活性化推進担当）兼深井駅周辺地域活性化推進室長）、宮井
良平（中保健福祉総合センター所長）、長谷英俊（自治推進課長）、大野
かおり（市民課長）、中崎皓之（保険年金課長）、宮崎規行（生活援護
課長）、赤松邦彦（地域福祉課長）、松尾敏之（子育て支援課長）、古
谷禎人（中保健センター所次長）、竹内秀和（企画総務課長）、重谷憲治
（企画総務課長補佐）、大橋直季（企画総務課企画係長）、神楽所千花
代（企画総務課副主査）、具足愛（企画総務課職員）

1 開会

○司会（大橋）

ただいまから令和 7 年度第 1 回堺市中区政策会議を開催させていただきます。私は本日の司会を務めさせていただきます中区役所企画総務課企画係長の大橋と申します。よろしくお願いいたします。

今回、開催に先立ちまして、本政策会議の構成員の変更内容をご報告いたします。

まず、静構成員でございますが、令和 7 年 4 月 6 日にご逝去されましたので、謹んでお知らせいたします。次に、梶原構成員でございますが、本年大学を卒業されたことに伴いまして、構成員を続けることが難しいとの本人のご意向がございましたので、ご報告いたします。

以上のことから、本政策会議の構成員につきましては、これまでの 21 名から 19 名の体制で進めさせていただきます。

○森田座長

ありがとうございます。ただいまお聞きいただきましたように、静構成員におかれましてはとても残念なご報告を受けることになりました。静構成員には、政策会議及びその前の区民評議会から長年ご貢献いただきました。私が座長をさせていただいてからも、長年、副座長として支えていただき、助けていただいておりますので、とても残念なご報告です。

突然のご提案なのですが、長年のご貢献を考えまして、よろしければ、黙祷を捧げさせていただければと思います。もちろん強制ではございませんので、賛同いただける方だけで結構です。1 分間だけ黙祷させて

いただければと思います。では、黙祷させていただきます、黙祷。

どうもありがとうございました。それでは進行を戻していただきますようよろしくお願いします。

○司会（大橋）

森田座長、ありがとうございました。

本日の構成員の出欠についてですが、竹井構成員、中辻構成員、真栄田構成員、溝下構成員、山口構成員の 5 名におかれましては、所用のため欠席というご連絡をいただいております（後刻、堤構成員からも欠席連絡あり）。

それでは次第に従いまして、順に進めます。まず開会に当たりまして、中区長の伊藤よりご挨拶を申し上げます。

2 中区長挨拶

○中区長（伊藤）

こんばんは、中区長の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様には、平素より中区の区政運営につきまして、ご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。私は、この度、4 月 1 日に中区長に就任いたしました。中区の区政推進に向けまして、精一杯取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しい中、令和 7 年度第 1 回堺市中区政策会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日のテーマは、「次期堺市中区地域計画（骨子案策定に向けての考え方）について」でございます。

中区の地域計画につきましては、区政運営の大方針でございまして、今年度は計画期間もご承知のとおり、最終年度となっております。現在、中区ではめざす将来像の実現に向けまして、中区の有する魅力や可能性を最大限に活かすよう取組を進めております。

今後も区民の皆様が中区で安心して暮らし続けることができ、将来にも夢と希望が持てるように中区の魅力を最大限に活かし、積極的に挑戦し続けることのできる計画とさせていただきたいと考えております。

次期計画の策定に当たりましては、本政策会議での構成員の皆様からのご意見も参考にさせていただきながら、策定作業を進めてまいりたいと考えております。

本日は骨子案策定に向けての考え方につきまして、様々ご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。簡単ではございますけれども、冒頭、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○司会（大橋）

ここからの会議進行につきましては、まず、私の方から議題の設定理由について説明させていただき、その後、森田座長に進行をお願いいたします。

それではまず、今回の議題の設定理由についてご説明いたします。今回の議題は「次期堺市中区地域計画（骨子案策定に向けての考え方）について」です。

資料 3 に添付しております堺市中区地域計画につきましては、本政策会議の前身でございます堺市中区区民評議会において諮問及び答申をいただきまして、令和 3 年 3 月に策定いたしました。その後、同計画に基づき、めざす将来像の実現に向け、各取組を進めてまいりました。現行計画は今年度に計画期間を終えることから、現在、次期計画の策定に向けて準備を進めております。

次期計画の策定に当たりましては、より多様な視点からの検討を深めるため、骨子案策定に向けての考え方について皆様にご意見をいただきたいと思います、今回の議題とさせていただきます。

なお、配付資料のうち、資料 1 と資料 2 について、それぞれ補足説明させていただきます。

まず、資料 1「次期堺市中区地域計画（骨子案策定に向けての考え方）について」でございます。先日、皆様から事前意見をいただく際にご覧いただいた資料の内容から、ページ番号の 2 ページのところで図を掲載しておりますが、こちらの図で将来像実現のための重点事業が、第 3 章のめざす将来像にも効果をもたらすということを視覚的に分かりやすくするよう修正反映いたしました。なお、その他文言の修正はございません。

次に、資料 2「堺市市民意識調査における中区在住者の属性」についてです。

こちらは市民意識調査の回答者における性別や年代をグラフ化したものです。指標の検討に当たりまして、参考資料としてご覧いただきますようお願いいたします。議題の設定理由については以上です。では、森田座長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

3 議事

○森田座長

皆様、こんばんは。本日もよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきたいと思います。ただいま事務局から議事の設定理由についてご説明いただきました。構成員の皆様のご意見を伺う前に、先日開催されました学生部会について、事務局より内容を説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（大橋）

それでは、学生部会の概要を説明いたします。中区では、令和 3 年度第 2 回の本会議より、学生構成員の皆様の会議案件の理解を深め、会議当日の意見提出の助けとするために、学生構成員だけで先行して意見交換を行う学生部会を開催しております。

今回、5 月 14 日に開催し、2 名の学生構成員の皆様が参加していただき、事務局から資料についての説明を受けた後、質疑応答や意見交換を行いました。学生部会についての説明は以上です。

○森田座長

ありがとうございます。次に、学生部会に参加いただいた学生構成員の桂さんに意見交換内容についてのご報告をお願いしたいと思います。桂さん、お願いします。

○桂構成員

大阪公立大学大学院農学研究科の桂と申します。先日開催されました学生部会において、参加学生で話し合った内容について報告させていただきます。資料 5「令和 7 年度第 1 回中区政策会議学生部会報告」をお手元にご用意ください。

まず 1 つ目の質問、現行計画の KPI 達成状況、各指標における評価への意見については、資料の上半分のように全体に関すること、そして安全、子育てに関する意見が出ました。まず全体についてですが、各指標は市民意識調査の数値により評価されており、年度により大幅に変わることもあるため、「～だと思いますか」といった主観的なものより、「～をしていますか」といったような客観的なもの、定量的な指標を設定してはどうかといった意見が出ました。

また、評価の変動は、中区の活動とは関係のない社会情勢の影響も多くあると考えましたので、中区の評価をするに当たっては、堺市全体の数値と比較したり、中区以外の他区の人に評価してもらうといったような視点があっても良いのではないかと意見も出ました。

続いて安全についてですが、こちらも全体に関する内容と同様に、体感的な指標では成果が計りづらいいのではないかと意見が出ました。ただ、こちらの分野は堺市全体と比較すると中区のアップ率が高かったため、中区として防犯や安全に力を入れて取り組んでいるのかなと感じました。

最後に子育てについてですが、実際に子育てをしている人とそうでない人とは評価に乖離があるのではないかと意見がありました。

質問 1 については以上です。

続いて、2 つ目の質問、各要素の取組の方向性や方針、成果指標、KPI における見直しの必要性、見直すべき内容については、資料の下半分に記載のとおり意見が出ました。まず全体に関するのですが、定量的な指標の設定を検討してはどうかといった意見が出ました。次に、安全、子育て、福祉については、資料に記載のとおりそれぞれ意見が出ました。

特に福祉についてですが、現在の取組が指標の達成につながりにくいといった評価でしたので、実情にあった指標に変更すべきではないかといった意見が出ました。

最後に、将来像実現のための重点事業についてですが、水質池公園の整備は中区にとって大きな事業であり、区を代表するものとして、もっとプッシュしていけばいいのではないかと、また、公園整備により、深井駅周辺のイメージアップにもつながるのではないかと意見が出ました。

学生部会の報告は以上になります。

○森田座長

桂さん、どうもありがとうございました。

さて、構成員の皆様から、事前にそれぞれたくさんのご提案、ご意見をいただき、その内容を事務局で資料 4 にまとめていただきました。また、学生部会においても、ただいま報告がございましたように、様々な提案や意見が出ております。これらの内容をご覧いただきまして、新たな意見等についてのご発言をお願いしたいと思います。

資料 1 の 3 ページ目と 4 ページ目に KPI の達成状況がございますので、こちらもご覧いただきまして、ご意見いただければと思います。

さらに、資料 2 は私の方から付けてもらうよう依頼させていただきましたので、補足説明させていただきます。資料 1 の 3 ページ目、4 ページ目に KPI の状況がありまして、それぞれ値が出ていますが、資料 2 として堺市市民意識調査と中区の回答者の結果についてまとめていただきました。

それで、資料 2 では何を表しているかというと、例えば資料 2 の 1 番左上は令和元年、その右は令和 3 年、その次が 4 年、5 年となっておりますが、その時々調査における中区の方の回答者の数と、年齢構成及び性別の比率を表しています。例えば、令和元年度ですと、右上のところに $n=655$ とあります。これがそのアンケートに答えられた中区の方の人数ということになります。令和 3 年度ですと、 $n=725$ ですから、725 人答えておりますということです。ところが、令和 4 年は 315 人、令和 5 年は 348 人というように、人数が違っているという点にご注意ください。それと一番右下、これが中区の人口比率なのですが、これは令和 6 年 12 月末現在です。本当は、令和元年から見るとちょっと違うのかもしれないのですが、大幅に変わっていないという前提で考えますと、きちんと人口と年齢別、性別の構成比率で答えていただくと、このような形になるはずですが、それぞれの年度で 20 代から 40 代までの方の回答比率が若干人口構成比率よりも少ない時があります。令和 3 年とかはまだ良いのですが、令和 4 年は 20 代 30 代が少

ない状況です。令和 5 年と 6 年は全体として 20 代から 40 代が少ないといった感じです。

ということで、まずは、回答の比率が、このような違いがあるという点を踏まえて、数字をちょっと見ていただければと思います。今度、資料 1 の方を見ていただくと、調査で聞いたもののうち、そう思うとか、大変そう思うとか、そういう回答をカウントして、その比率を見ているわけですが、そういう調査なものですから、例えば 1%や 2%違ったところで、これは誤差の範囲と考えられます。例えば、300 人に聞いて 3 人違ったら 1%ですから、回答者はその時によって違いますので、その程度の誤差は当然考えられることなので、1%や 2%は誤差だと思っていただき、ちょっと大きい、例えば 5%ぐらい違っていたりすると、やはりそれは違う傾向なのかなと考えていただいた方が正しい理解ができるのかなと思います。人口構成とかも見つつ考えていただきますと、例えば、20 代から 40 代の人の意見がちょっと少ないということは、そういう方々の視点はちょっと反映されていない結果になっている可能性もあるのかなということを踏まえて考えていくとよいかなと思います。

今ほど学生部会のご報告をいただきました。もっともなご意見かなと思います。

せっかくですので、学生の方でもう 1 人、小西さん来られていますかね、報告された内容と同じことでも良いですし、ご自分の意見で書かれていないところでもよろしいのですが、何か補足や、ご発言いただきたいことがあれば、先にお願ひできればと思います。いかがでしょうか。

○小西構成員

最初の Q1 の方にあった「～と思いますか」という主観的なものより、「～していますか」みたいな客観的なものを設定できたら良いなと思うのに補足しまして、例えば防災訓練とか避難訓練とかをもし実施したとしても、例えば、皆さんのいざ災害が起きたときに自分たちがちゃんと動けるかという効果は、防災訓練をしたからといって上がるわけではないと思いますので、実施したという事実より、効果があつたように思いますかという主観的なものが大事なこともあるのかなと考えています。以上です。

○森田座長

ありがとうございました。

そうですね、先ほどの学生部会の報告もありましたし、今の小西さんの報告もありましたけど、主観、客観というお話が出てきたかと思いますが、確かに両方それぞれ、良いところ、悪いところがございまして、主観というの、今、小西さんおっしゃったように、そう思っているかどうかという点はそれはそれで重要なのですが、そう思うかどうかは、聞く人によっても答えが違ってしまふという問題がございます。そういう意味では、主観の良いところ、悪いところがありますと、その上で客観性があるものという聞き方をするのも重要なと思うのですが、これは「何をしていますか」という聞き方もあるかもしれませんし、何かもうちょっと客観的な基準を出して、それと比較して、実際どうかというような聞き方をすることもできるのかもしれませんが、しかしながら、この意識調査は、中区独自でやられたものとはちょっと違うことですので、その辺りは、なかなか難しいところもあるのかも知れません。

そういうところも含めまして、まずは Q1 の方はこの資料 1 の KPI の達成状況の指標の値ですね、その主観、客観の問題は議論していただいても結構ですし、ここに出ている数字と、実際、皆さんが、お住まいになっていて思われている状況と、大体一致しているところはどんなところかとか、逆にそうは思っていないのに結構高く出ているとか、もう少し良い値が出ていると思うのになんか低い値が出ているじゃないかというようなところがございましたら、そういうところも中心にご指摘等いただければと思いますがいかがでしょうか。

それでは、今西さん、いかがでしょうか。今日いろいろ書いていただいているようなのですが。

○今西構成員

まず福祉について検証はしているのですが、元々の設定の時、最初の時から値が高かったので、意識がみんな高いのだなと思って安心しています。高齢者等実態調査からの数値とありましたので、若い人たちの意見も今後入れられたら良いなと感じました。この KPI の数値の方が、高齢者等実態調査からの数値と記載がありましたので、そこがちょっと気になりました。

あと、健康についても KPI が上昇しています。これも良いなと思っています。若い頃から健康を気にしてもらえると健康を保っていくことができるので、高齢者になっても健康でいられるなと思って、長くもっと元気になるのではないかなと思います。あと、相談者が身近にいるかについての数値が高くて、この保健センターとか包括とか病院とかの周知活動が進んでいて、相談ができているのかなとも思いました。今後もイベントとか市民啓発のセミナーとかがあったら良いなと思います。

ちょっと気になる点としては、KPI の数値にのってこない方たちというのは、高齢者とか障害者の方とか、生活困窮している方たちで、私が関わっている方たちの結構多くが、どうせ相談しても無理だからって思っている方とか、その相談先を知らないって方もまだまだいらっしゃるんで、本当に必要な方たちが福祉の手からこぼれ落ちることがないようにできたら良いなと考えました。以上です。

○森田座長

ありがとうございます。福祉の KPI は「かかりつけの医師がいらっしゃいますか」ということなので、質問自体は客観的な聞き方をしている項目ではありますが、福祉の中でも非常に端的なことを聞いていただいたので、ご指摘いただいているようにカバーされてないということだと思うのですが、逆に例えば、なんかこういうものを質問するとか、もしくはこういう調査の結果を持ってきたら良いかなと思うようなものって何かございますか。

○今西構成員

そうですね、Q2 の方に書いたのですが、評価が正しくできるような調査方法があったら良いなと思いました。ただ、一方で個人情報の壁もあって、難しいのだろうと思うのですが。本人や家族から情報を得られないときは、行政の介護保険の方とか、障害福祉の方とか、地域包括とか、その辺からだったり、地域のケアマネージャーさんとか、相談員からお話は聞けるのではないかなと。そういう方たちが本人さんたちに説明すれば、身近で分かりやすく質問にも答えてくれやすいのではないかなと思ったのですが、その個人個人でやっていく調査方法はとても大変かもしれないのですが、そうできると、もっともっと正しく評価できる数値が上がってくるのではないかなと思います。

○森田座長

ありがとうございます。そういう方々というか、ちょっと違うところに聞くのは、かかりつけ医師がいるかっていう質問で良いでしょうか。それとも、それも変えたほうが良いでしょうか。

○今西構成員

かかりつけのお医者さんは、私の周りの方でもまだまだ大きい病院に行った方が良いと思っていっぱいの方が多くて、その辺のまだ浸透していないところもいっぱいあるのかなと思っています。

○森田座長

なるほど、質問はいいけど、そういうのが知らない人とか、調査がちゃんとできていない人をきちんと拾うと

ということですね。わかりました。ありがとうございます。

今、結構福祉の件が中心でしたけど、福祉の方でご発言されたい方はいらっしゃるでしょうか。

太田さんいかがでしょうか。

○太田構成員

福祉のところは、私も、高齢者の方以外、私のような年代と、あともう少し若い方へのアンケートというか、その現在の状況を知りたいなと思っています。もちろん、子育てされているお母さんお父さんの健康への意識だったり、生活状況であるとか、そういうところも少し入れていただけるといろいろ見えてくるものがあるのかなと思います。

○森田座長

ありがとうございます。例えば、この KPI の中で、4 ページ目の方に健康というところがありまして、健康指標の 2 番目に「健康や介護など日常生活におけるお困りごとについて相談に乗ってくれたり、助けてくれたりする人がいますか」というのがありまして、そんな感じのイメージでしょうか。それはそうですね。お医者さんだけじゃなくて、サポートして下さる方とのコネクションというのも重要です。この質問自体は健康に入っていますが、そういう観点を見してみるっていうのも良いのかなと思いますね。

他はいかがでしょう。今の福祉だけでなく、他の件でも結構です。

○田重田構成員

この意識調査というところは、私、ちょっと素人なので、素人の考え方でお話ししますが、指標は、例えば「かかりつけ医がいますか」という聞き方のものと、「子育てしやすいまちだと思いますか」というのは、誘導が全然違うなと思うのと、主語が大きすぎて、何ををもってこれを評価しているのかというのが全然分からないなと思います。

この意識調査自体がどういう形で行われたのかちょっと分からないのですが、これを答える人が、何ををもって子育てしやすいまちと感じたのか。この結果も属性情報が全くないので、例えば女性で子育て世代の人はすごく子育てしやすいと思っているけれど、男性はそうじゃないと思っているとか。分析をするのであれば、その辺の属性情報はいるのではないかなとか、疑問に思うことがたくさんありまして、この評価自体が正しいかどうかというのを評価するのはこの資料では難しいのではないのかというのが正直な感想です。実際その属性の情報とか、もう少し細かい設問の内容とか、自由記述のまとめとかっていうのは、実際はあるのでしょうか。

○森田座長

ありがとうございました。私が正確に答えられるわけではないのですが、先ほど私の方からも補足させていただきました資料 2 をご覧いただくと、年代と性別というのはあります。今のご質問のことも関係するのですが、例えば「子育てしやすいまちですか」と聞いているのですが、皆さんに聞いていらっしゃるの、実際に子育てされている世代だけの数字ではないということです。私がやったアンケート調査ではないので、正確には分からないのですが、属性情報を切り離しているということはあるので、調査票の中ではおそらく性別とか年代とか聞いているはずで、当然のことながらそれは連動しております。クロス集計はできるはずです。

ですので、多分、この中から、例えば 20 代から 40 代の女性だけを限定して集計するというのはあり得るところだと思います。その数字がどうなるかというのは全く分かりませんが、おそらくざっくり考えて、50 代以

上だと半分以上の数字がありますので、ちょっと違うかもしれないし、一緒かもしれないということになります。

それらを考えるヒントになるように、資料 2 の年代、性別の比率をお示しさせていただいたということが一つ。それともう一つは、回答者がどう質問を受け取るかということが多分明確にはなっていないというのはおっしゃるとおりで、非常に漠然とざっくりと聞きすぎていますよね。

ですので、何をもって子育てをしやすいまちかと思ったかは、人によって多分全然違うと思います。本来だったら例えば子育てがしやすいまちかどうかということを知りたいという大枠がある中で、どういうポイントを聞くかというのを本当はもうちょっと分解して聞くほうが、よく分かるのかなと思います。

○田重田構成員

そうですね、その具体的な取組とか政策を示して、この取組を評価しますか、しませんかというのを積み上げてポイント化して、全体の評価以上を超えているから、全体としては評価されているのではないかと、そういう積み上げとかじゃないとこのようにざっくりとした聞き方だと、本当にただの主観になるのではないかと思います。

○森田座長

そうですね、その点はおっしゃるとおりだと思います。1 つはですね、聞き方を変えるという方法はあるとは思いますが、この調査自体は堺市本庁の方で実施していることなので、区の方で対応ができないというのと、仮にそこの聞き方を変えたところでですね、ちょっと難しいところではあるかと思います。ちょっと考え方を改めて評価するのであれば、結果変数みたいなものを聞いてみるとかですね。

例えば、待機児童の数は流入とかがありますので、何とも言えないのですが、実際に、中区内の保育園を卒業されたお子さんの数とかですね、具体的に数字で捉えられるようなものを見るというのは 1 つでしょうし、ご指摘いただきましたように、何か施策を具体的に打っているのであれば、それについてどうかということを知りたいのも、1 つの方法なのかなと思います。その辺りはそうかなとは思いますが、ここは何度も言いますが、中区さんの方でできる意思決定ではないと思われますので。

聞いていることと語弊があるかもしれませんが、ちょっとそこに関してはこれはこういうものとして使いつつ、何かプラスで評価してはどうかという観点で見ていただいた方が良いのかなという気がいたします。

○田重田構成員

分かりました。ありがとうございます。すみません、最後のところでちょっと気になったのですが、中區で実施したものではなくて、堺市全体で実施したものです。

○森田座長

そうですね、そう聞いています。

○田重田構成員

中區でこういう指標を入れてくださいと言っても、それが通るとは限らないということなのですね。

○森田座長

そうなのでしょうね。事務局から補足説明があるようです。

○事務局（大橋）

事務局より補足説明いたします。堺市市民意識調査は、堺市全体で政策企画部という部署で実施しております。おっしゃっていただいたとおり、質問項目等の要望に関して全庁照会があったかとは存じますが、それが全て叶うわけではないということは、今、座長がおっしゃっていただいたとおりでございます。

○田重田構成員

ありがとうございます。答える人のインプットが気になるなど、いきなりこの質問を聞かれてもどう答えていいかわからないという人がほとんどなのではないかなと思います。

○森田座長

そうですね、その点のご指摘のとおりだろうと思います。他の項目も多分そういうところは結構あるのかなという気がしますし、そういう問題点があるとは思いますが、それは今、ご説明にもありましたように堺市全体で実施している調査であるということと、この評価のためだけに実施しているわけではないものを一応この評価にも使えるので、使っているということもあろうかと思います。

少し乖離している部分は否めませんが、一番近いものを持ってきている数字がこんな感じなのだと思います。いただいた上で、特に現状の皆さんのお暮らしの状態と比べてどうなのかなというところが少し気になるのですが、例えば、田重田さんが思っている数字と比べると、今、子育ての話が出ましたが、令和 4 年はちょっと低い数値ですね。しかしながら、他は 58%で、58%が良いのかどうなのかはちょっとわからないのですが、実感との比較としてはどのような印象でしょうか。

○田重田構成員

すみません、正直分からないというところです。中区に住んでいないというのはありますが、事業はやっていますが何をもちて子育てしやすいと思っているのかなというのは逆に知りたいと思います。

○森田座長

なるほど、わかりました。ありがとうございます。では、他はいかがでしょうか。子育ての KPI については、どんなにかがですか。どうぞ。

○桂構成員

学生会でも出た意見ですが、例えば子育てだったら令和元年度で 53%という数値が令和 3 年度には 58%まで上がっていて、令和 4 年度にはまた 43%まで下がっているといったような、この上下の変動みたいなのがあります。この変動がやはり 1 年でこんなに変動するのかなというような変動になっていて、どちらかというと堺市中区の活動の影響よりも、学生会の報告でもさせていただいたのですが、社会情勢といったような影響が大きいと考えられます。KPI というのがこの活動の評価をするための指標なのですが、正しく評価できていない部分もあるのではないかなというところが、学生会でも意見として出ていました。

です、この質問 1 の正しく評価できていたと思いますかということに関しては、この変動が大きいものについては、ちょっと正しく評価できていない部分もあるのではないかなといった意見が出ていました。

○森田座長

ありがとうございます。令和 4 年の数字が急速に変わっているというご指摘なのですが、結論は分かりません。しかしながら、1 つ考えられることは何かというと、資料 2 を見ていただくとちょっと分かるのですが、令和 3 年までは 600 以上のサンプルが取られているのですが、令和 4 年からサンプルが減っているの

ですね、1 つは。それで、もう 1 つはそれを見ていただくと、なぜか令和 4 年は 20 代、30 代の回答比率が著しく低いんですね。その影響が何パーセント出ているかっていうのはちょっと分からないのですが、本当だったらそういうところを細かく分析すれば、そこが違っているのかどうなのかっていうところを見ることができるのですが、今その数字ではないので、それについては何とも申し上げられないのですが、可能性としては、例えばそういう調査上の問題というものはあるかもしれないと思います。もし、令和 4 年の状況が本当に続いているといいですか、それが本当の皆さんの意見なのだとしたら、令和 5 年に元に戻っているというのは、そういう数字が出ていることを考えると、令和 4 年はちょっと変わった結果が出てしまったのではないのかなと考えるべきなのではないかと思います。ただ、正確なことは断定できないので、そういう可能性があるということとでしかないですね。しかしながら、ご指摘ありましたように、実際に全ての方法がそうではないのですが、特に子育てとかになると、比較的若い方の意見が反映されるでしょうし、そういうものについては、強化といいますか、集計を考えるべきだろうかなという気はいたします。しかしながら、他の項目、例えば、安全とか環境とかは皆さんに関係するので、それぞれについて年代を決定する必要があるかというところでもないで、ちょっと子育てはそういった特殊なところかなという気がします。

○桂構成員

安全のところの KPI の治安に関するところも、上下しているところもあるので、やはりその評価、調査をどうやってやるのかということもおっしゃるとおり、大きく影響するとは思いますが、やはりこれだけではない、何かもうちょっと客観的で安定した評価基準が必要だなといったような結論が出ていました。

○森田座長

ありがとうございます。その客観的なっていうのはおっしゃるとおりで、それが先ほど私が例に出しました子育てだったら、実際に保育園を出た方が何人になるかというのは客観的な数字ですので、例えばそれがいいかどうかは分かりませんが、そういうものであったりすると、アンケート調査とはまた違って、違う角度から数値として示すものとして見ることができるかなという気がします。他の項目についてもそういうのを考えることができたとなると、この今の指標は指標でいいと思うのですが、また別の観点からも見た上で評価することは重要なポイントなのかなと思います。

他はいかがでしょうか。他の指標もそろそろ時間もありますので見てみましょうか。安全とか環境とか、特にちょっと、身近なのかどうかというのも難しいかなと思いますが、歴史文化みたいなものも結構難しいポイントなのかなという気もするのですが、そのあたりはどうでしょうか。

谷村さんはどうでしょうか。

○谷村構成員

よく仕事で区役所さんの方は来させてもらうのですが、その時に、注染、和晒のイベントなどの歴史文化情報の発信というのは、時々されているので、この辺のポイントが KPI として上がっているのは、納得のできるところかなと思いました。

あと、環境のところ、街並みの美しさに満足できるまちだと思いますかというところのポイントが上昇しているのは、深井駅周辺とかですね、中区内あちこち行っているのですが、よく花が植えられている様子というのはよく見かけますので、やはりその花が植えられているということもそのきっかけになっているのかなと思います。

結構花を見ると、高齢の方だったりとか、その他一般の方々も気持ち的にも良いものだと思いますので、その関係の KPI は上昇しているのかなと思いました。以上です。

○森田座長

ありがとうございます。花は増えているのですかね。区役所の方が何か事業としてやられている感じでしょうか。

○事務局（大橋）

事務局から補足いたします。区役所の方では、毎年、春と秋に種をまいて、芽が出たところを株分けし、各校区の方にそれを配布しておりまして、その校区の方がその地域に植え付けるといった事業をボランティアサークルの花輪さんと協働して実施しております。

○森田座長

なるほど、分かりました。ありがとうございます。

そうですね、それは増やされているとか、だいたい同じ量を毎年やられている感じですか。

○事務局（大橋）

そうですね、毎年活動を大幅に増やしているということではないのですが、継続的に、着実に進めています。

○森田座長

分かりました。他いかがでしょうか。環境ではあと何でしょうか、その辺の花の件とかは、松居さんは何か関係されていたりしないでしょうか。

○松居構成員

知っている範囲ですけれど、中区の花のボランティアサークルさんの花輪さんが、区役所の前で活動されていたり、市全体でも、公園協会さんが、花のボランティア活動を活発にされているのでそれに関することかなのかなと思いながら聞いていました。

○森田座長

なるほど、ありがとうございます。以前、花壇でたばこの吸い殻を捨てられるという話があったかと思いますが、澤本さん、どうですか、今の花の件は。

○澤本構成員

深井駅前のフラワーポットに関しましては、公園協会さんの方がお花を提供していただきます。花輪というチームを作りまして、中区の方では花の種をまいてそれを育てて地域の方へ配っています。深井駅のお花に関しては、作業をお手伝いさせていただくという形になっていまして、深井駅周辺は以前までは業者さんが入って定期的に全て入れ替えをしていました。ただ、それではまだ大丈夫なお花も全て抜いて植え替えをしていたので、やはりちょっともったいないかなと思ひまして、花輪の方からサポートさせていただくように声掛けをしています。それで、定期的に悪くなったお花から交換する作業の方を、花輪がお手伝いに行かせてもらっています。

○森田座長

ありがとうございます。なんかそういう活動があると、それこそたばこを吸う人の中から吸い殻を捨てたりする人が減ってくるのではないかなと思うのですけれど、そういうことはないのでしょうか。

○澤本構成員

減ってくる時もあったのですけれど、お花を植えたらすぐ後、ポットごと持って行かれたりすることがあって、ちょっと胸が痛んだりするのですけれども。

作業をしている間は通行される方達から、いつもありがとうとか、この花は名前何て言うのですかとか、いろいろ声掛けしていただいていますので、悪いことばかりではないのですけれども、交流の一つにもなっていると思います。

それから、花輪のメンバーですが、いろんな地域から来ていただいております。割と年配の方が多く、その年配の方たちはいつもおうちにばかりいるので、ぜひそういう作業をお手伝いしたいから声掛けてねって言っていただくので、その方たちの生きがいとまでは言いませんが、楽しみの一つとして皆さん参加されていますので、ちょっとプラスにはなっているかなと思っています。

○森田座長

なるほど、ありがとうございます。ちょっと詳しくは分かりませんが、その管理は花輪さんがほぼやられている感じですか。

○澤本構成員

はい。

○森田座長

なるほど、ちなみに例えば活動されている回数とか、植え付けた数とか、なんかそういうのって記録されていないのでしょうか。

○澤本構成員

月に2回、深井駅の作業の日にちを入れていますが、お花の状況を見て、第2、第4金曜日の日に作業をしています。植え替えなどのない時はお花のお掃除をしたりすることで、月2回は集まって深井駅の作業をしています。

○森田座長

なるほど、ちなみにそのたばこの吸い殻の数というのはなかなか難しいかもしれませんが、ごみの量とかって記録されたりはしていないのでしょうか。

○澤本構成員

いや、それはないですが、その花壇の中にまだたばこの吸い殻を入れられたりすることが多かったり、ポイ捨ても多いので、その辺は気を付けてお掃除するようにしています。

○森田座長

なるほど、なんでこんなことをお聞きしているかといいますと、先ほどから出ています、どう良くなっているかという数字を拾う時に、例えばごみの量が減っているというようなことが分かったとすると、とても重要なことと思

いまして。それで、もし例えばそのごみの量とかを測るのはなかなか大変かもしれませんが、記録をつけていただいていたりとすると、結構そういう数字というのも後から使えるのかなというところです。

○澤本構成員

ちょっと記録の方が難しいのですが、そうですね、公園協会さんとしては、放置自転車をなくすために大きなポットを置いているという目的もあるようです。駅前に駐輪場はありますが、そういう広い場所があれば、そこに皆さん駐輪されるので駐輪スペースをなくすということも考えて、公園協会さんがポットを置いています。その点では良くなっていると思います。

○森田座長

そうですか、ありがとうございます。そうですね、このあたりの数字を客観的な数字を上げるのは、なかなか難しいのかなと思ひまして、そちらの活動だけでは大変だと思うのですが、例えば、つながっているという点では、その駐輪の違反の数とかというのも 1 つは見るポイントなのかもしれませんね。

あとは、何か出てくる数みたいなものはありますか。環境とかってなかなか難しいですね。それではちょっと時間も回ってきましたので、Q2 の方も含めて、お話をお聞きしたいと思うのですが。

今まで出ているご意見としましては、やはり見ている指標はあるのですが、ちょっと評価としては主観的すぎるポイントもあったりするし、少しズレているものもないわけではないと。そこで、例えばどのような数字を見たらいいのかということも含めて、特に実感されている点と違うようなところというのが一番問題なのかなと思うのですが、そういう点も踏まえて、何か見たりするようなところというのはございますかね。

松居さんは、いろいろ活動されている時に、何か記録はとられていますか。例えば、今の話ではないのですが、清掃活動した時にごみの量がどれくらいだったとか、ごみじゃなくてもいいのですが、何かそういう活動した時に関係した数字みたいなものあればどうでしょうか。

○松居構成員

あまり数字を綺麗にとつてはいないかなと思います。どちらかというと体感といいますか、続けて関わっている学生がいたりすると、前に比べてどう変わったかな、みたいなことを感覚で喋ることはあったり、そういった意味合いで、やっていることが何につながっているのかなということを考えることがあるのですが、あまり説得力を持たせられるような数字みたいなところではできていないかなと思っております。

○森田座長

基本的にはやはり記録しないことにはどうしようもないのかなという気もしますが、とはいえ、一生懸命活動するだけでも大変なのに、その記録まで取るというのは大変な話ですので難しいかなというのは重々承知していますが、やはり記録を取っておくと、前とは違ってきたよねというようなことを明らかに示せるという点も活動を評価していく点では重要なかなという気もしまして。

何かそういうのがあるといいかなという気がするのですが、何かこういう方法は、とか、こういう点でものを見たらいいのではないかなみたいなご提案はございませんでしょうか。伊藤さんはいかがでしょうか。

○伊藤構成員

なかなか数値化するというのは難しいと思うのですが、環境とか、歴史文化のところで言うと、世界遺産に 2019 年に登録されたと思うのですが、それから以降、世界遺産のまちとして古墳の周辺とか、古墳アピールという部分では、かなりメディア的にも、堺市全体的に広くいろいろな取組をされていたと思います。

その意識もあってか、結構歴史文化のところの数値って高いのだなと思って見ていました。

それ以後もせっかくの世界遺産をどう国内外にアピールしていくかということで、積極的には堺市さんも取り組んでおられる部分もありますので、まちを綺麗にしよう、もしくはごみを分別したり、整理したり、廃棄に関してもっと個人レベル、家庭レベルのところまで指導というか、そういった部分というのは町内会や自治会を集めて指導が入っているのかわかりませんが、その辺はすぐまちを綺麗にしているという印象はありますね。

それで、ポイントをどう取りつけるというところにはなりますが、やはり何かの将来的なところで言えば、取り組みやすいような仕掛けですけれど、駅前周辺だとか、区役所前とかに目安箱じゃないですが、綺麗と思ったらここに一票みたいな、何かを投下できる、よく割り箸で美味しかったらこっちに入れるとかね、ごみ捨てをしながら、ごみがこっちの容器に入っていたら綺麗にされているというイメージでごみボックスを分けて、こっちに入れるのが楽しくなるような仕掛けみたいなのがあれば良いかなと。せっかく今度新しく、公園整備を行っていますので、そういう視覚的にも面白いものをあちらこちらに、この際というかこれから新しくまちを生まれ変わらせるという意味では市民あげてというか、地域と取組を一緒にして、住みよいまちをめざしていくという意味で、ごみ箱でこっちにたくさんごみが入っていたら、住みよいまちだったと言えるような意見ボックス兼ごみ箱みたいな、なんかそういう遊び心満載の取組ができれば面白いのではないかなと思います。

○森田座長

なるほど。そうですね、どのような取組が良いのでしょうか。確かにおっしゃるように食フェスとかで、そもそも割り箸で食べるから食べた割り箸をどっちに投票するかっていうやつですね。

ちょっとそれとは違う件で、今日竹井さんは来られていないですが、竹井さんの意見の中で書かれていたのは、最近ちょっと注目されている SAF、廃油の回収をして航空燃料にしようみたいな取組がありました。ちょっとそれは今、回収のシステムがどこまでちゃんと行き届いているかというのは分からないので何とも言えないところですが、単に飲食店とかだけではなくて、家庭で出た廃油を回収したものをカウントできるようにすると、少しはそういうことにつながっているのかなという気はしますけれど、なかなかそれも難しいところはあるのでしょうか。

そうですね、ごみの件で言えば、田重田さんからこの間の会議でこどもの取組の話もされていましたが、あれとはちょっと違うのでしょうか、それに類したことでアイディアとかないのでしょうか。

○田重田構成員

指標に関してでしょうか。

○森田座長

特に指標だけではないのですが、今の話でごみの回収をするだけではなくて、何かちょっと遊び心を入れながら行くと進んでみんながごみをごみ箱に入れるようになるとか。環境に関係する何かやり方とかっていうのはないですかね。

○田重田構成員

大阪大学の先生だったと思うのですが、仕掛け学という考え方でごみ箱をバスケットボールに見立てて、どうしても中心に入るように入れたくなるみたいな、ごみ箱にその一工夫をするとか。

他には、ごみを集めたらその重さが測られていてどれだけ綺麗にしたかみたいなものが、数字で表示されるものにするとか。そうですね、そんなジャストアイディアだったらいろいろ出てくるかなと思いますが、この環境

のところで言うと、この堺市の街並みの美しさに満足できると思いますか、というのを測るときに、おすすめのスポットとか、自分の好きな場所はどこですかみたいところで、何箇所上がってくるかとかを見たら、例えば南区より中区の方がたくさん上がってきたりとか、相対的な評価もできそうだなと思いました。

今、一個の分野に一つとかで評価しているのですけれど、もう少し多面的に指標を分けて、積み上げるともう少し見えてくるものもあるのかなと思いました。

○森田座長

隣の区とも比較するのはなかなか難しく、それはちょっと大変かなとは思いますが、例えば、美しいところを挙げてください、というような質問をすると、別に他区と比較しなくても、そういうのが思い浮かぶというのは、やはり環境的に皆さんが綺麗にしているからなのかなと思えるかもしれません。そういう調査をできるのだったらやってみるというのも、1つの考えかもしれませんね。

○田重田構成員

贅沢を言うなら、各事業や各政策に対してそれぞれこの意識調査とか、結果の評価みたいなものを取りまとめるのが良いかなと思います。

○森田座長

そうですね、例えば安全とかだと警察の方では不審者の数とか、実際に犯罪にならなかったとしても、そういう調査と言いますか、記録をとっているのがあるかと思うので、例えばそういう数字を実際に一緒に突き合わせるとか、そういうのは可能かなとは思いますが、環境は今の話で言うと、なかなかそういう数字的なものを持つてくるというのは難しいところがあるのかなと。

例えば、交流とかではどうでしょうか。金澤さん、どうでしょうか。なかなか記録とか取っていないかもしれませんが、交流で、地域行事で何か数値的なものというのは、何かあるものでしょうか。

○金澤構成員

このアンケートですけれども、例えば交流と安全の項目に関して、行政もそうですし、我々の地域も町会員さんを増やしていくように取り組んでいます。この全項目の調査の中に回答されていない人にも適用できる項目も当然あると思います。その中で交流と安全に関しては、防災訓練や、地域でのコミュニケーションづくりでいろいろ祭りとかそういう面に関しては、62.7%となっているのですが、やはりそういう行事に参加している町会員さん、非常に多い地域も少ない地域もありますが、そういう方々の調査結果があればもっと数値が上がるのではないかなと思ったりします。

それで、もちろん会員でない人では、回覧一つにしても、町会からその回覧は回らないのですが、当然、市民皆さんには広報やホームページなど、いろんな形で情報は見ることができるかなと思うのですが、積極的にこども会や、またいろんな行事に関して、会員さんでなくても参加してもらえるような機会を作らないとは思いますが、なかなか現状では上手く進んでいません。

また今後ですね、松居構成員と打合せさせてもらって、公立大学の学生と一緒に、何か良い知恵があれば、会員さんでない人でも参加してもらえるような何か計画をすることできないかなと思っています。

今言いましたように、この安全とか、それからこの交流に関してはですね、私から見れば非常に中区全体でも多く取り組んでいる地域が多いのではないかなと思います。

○森田座長

なるほど、会員の方とそうではない方と意見がちよっと違うかもしれないと、そのあたりもなかなか状況を把握するというのが難しいですね。そうですね、ちょっと数字が違うのではないかという話、安全で話ですけれど、仲氏さんは書かれているものが現状の値とちよっと違うという話でしょうか。

○仲氏構成員

ありがとうございます。安全の分野に関して、学生さんの方からも話があったと思うのですが、令和 4 年度はちょっと低いところと、そういった数字が大幅に違うのですが、当社の方も、この中区の泉北 1 号線沿いに事業所を構えておりまして、比較的うちの事業所の周りが車の整備工場が多くて、夜になると街灯が少なく、結構ひき逃げとか、犯罪された方がそこをたどって逃げるというケースが多くて、先ほど先生がおっしゃったみたいに、警察が掴んでいる情報の共有ができれば、地域の防犯であったり、実際に私も、自分で人感センサーを設置したり、防犯カメラを置いているのですが、警察の方が防犯カメラを見せてほしいという事案が、年 4、5 回くらいあるんです。

そこら辺も含めて、中堺警察署ができて、多分意識的には区民の方にも精神的な安心を持っている方も多いと思いますが、本当に地域ごとで、場所によっては街灯が少なく、そういった警察が掴んでいる防犯上の情報をうまく結びつけることで、事前にそういった犯罪を少なくしていけるというところがあるのかなとは、私自身も実体験として感じているところです。

あと、交流分野に関しては、先ほど金澤構成員もおっしゃったみたいに、本当にいろんな地域でイベントをされているということも、私自身も感じています。先週の土日に友好祭の方にキッチンカーを出店させていただいて、土曜日はすごく雨が降っていて、去年に比べるとちよっと来られる方も少なかったかなと思いましたが、日曜日に関しては雨も上がりまして、例年以上に、地域の方が集まっておられましたので、そこに関しては、高齢の方やこどもさん含めて、いろいろな年代の方が来ていました。

意識調査の指標のところの根本的な信頼性について、みなさん意見をおっしゃっていたと思うのですが、イベントを通じていろいろな仕掛け作りをしながら、そういう形でいろいろな世代の方が来られますので、いろいろな企業さんなどと連携しながら意識調査の数を集めないと実際の指標というのは、評価しづらいところもあるかなと思います。

いろいろなイベントを活用しながらできれば、信頼性がある指標が見出せるのではないかなと感じました。

○森田座長

なるほど、分かりました。ありがとうございます。やはり何か数字と突き合わせながら考えないと、なかなか乖離している部分もあるでしょうし、そういうものを見ていくべきなのだなというのはそのとおりだろうと思います。

他は多分、治安の件については中区もそれなりに広いので、場所によっても違うのかなという気もしますが、どの辺の方に聞いているのか分かりませんので、偏りというのがあるのかもしれない。何とも申し上げられないところですが、実際にはそういう数字として出ているものが特に安全は良いのかなという気がします。

あとは、そういう意味で言うと安全とか、環境は数字を拾うのが難しいところがあると思いますが、ポイントはなんとなく分かるというのがあるかなと。歴史文化のところは、注染とかのイベントの参加とかそういうのは読めることができるのかなという気がします。

やはり難しいのはどこでしょうか、健康とか子育て、福祉もでしょうか、最初の方のお話だと思うのですが、この辺りはそもそもあまり子育てだと、若い人が特に声を上げるのもちよっと少ない場合もあるのかなと思います。

それで、実感というのをなかなか皆さんにお聞きしても、この数字がどうなのかというのはちょっと分からないかと思いますが、何かこの数字と中区での子育ての実感みたいなのを考える時に、こんなものかなとい

う意見でも良いですし、なんかずれているなというのも良いですし、そういうのををお持ちの方いらっしゃいますか。

○異構成員

やはり KPI を見せていただいた時に、意識調査だけが指標になっているというのにすごく私は違和感を感じていまして、森田座長もおっしゃっているように、客観的な、もともと行政の方とかで持っている数値と、こののを合わせて見ていかないと、計画の課題が分からないんじゃないか、計画が実際にちゃんと進んでいるかどうか、どこに課題があるのかっていうのが意識調査だけではやはり見えないと思います。

例えば、子育てでしたら、本当でしたら、その子育て世帯というのが、どのぐらいの割合になっていて、それが増えているのか、減っているのかというところを見ていかないと、本当に子育てしやすいまちだということで選ばれているのかどうか。結構、子育て世代は少子化になって本当少なくなってきたので、もう子育てしやすいかどうかで選んでいると思うのです、住むまちを。ですので、そこで選ばれているかどうかというのを見ていくというのは、本当は必要だと思います。

ただ、数値目標を設定するときにすごく難しいのが、右肩上がりになっていくものもあれば、現状維持で充分というものもあり、ちょっとぐらい下がっても他のところと比べたら良かったというところで見なきゃいけないものもあると思います。

特に子育てに関しては少子化がものすごい勢いで進んでいますので、右肩上がりになるというのはなかなか難しいと思います。余程のことがない限り。

ですので、数値で見ていくというのは必要だと思うのですが、目標を設定するときにやはりどこに目標を設定するのか、この右肩上がりで上がっていくという単純な目標の設定の仕方だとかかなり数値を見ていくのが難しいので、意識調査の結果が指標になっているのかなと勝手に推測していたのですが、やはり数値をきっちり見ていくというところで、目標の設定の仕方はちょっと工夫がいるかなと思っています。

○森田座長

どうもありがとうございます。

適切な方向性をいただいたのですが、例えば、先ほど私の挙げた例では、保育園を出た数とかって言うていたのですが、もっと適切な数みたいなものご存じだったら教えていただくと助かります。別にこどもの数とかでなくてもいいのですが、どういう数字を拾ってくるとそういうところに近い状況を把握できるようなものが見えますかね。何か良い数字はございませんか。

○異構成員

何を計画の取組方針に入れていくかによっても、どの数字を見ていくかが変わると思います。例えば、今の計画でいくと、子育て支援ネットワークの拡大強化というのを見るのであれば、子育て支援の関連で子育て広場がありますが、子育て広場の数がどれだけ増えたかとか、利用者数がどれだけ増えたかとかいうところを見ていくというのも一つだと思いますし、分野別の要素の中で、一つ一つ目玉政策みたいなものがあれば、その政策がちゃんと目標に向かっていっているのかというのを見る数値を設定するのも一つかなと思います。

○森田座長

なるほど、ありがとうございます。

確かにそうですね。あと、ご指摘いただいた、これはもっともだと思うのですが、どのぐらいがその適切な水

準なのかというのは、なかなか答えがないと言えば答えがないので、難しいところだと思いますが、考える上での指針と言いますか、例えばこういうものであればこう考えた方が良いともありますでしょうか。

ちょっと漠然とした質問で申し訳ないのですが、何か例でも結構ですので、ご存じなことがあれば。例えば、他の自治体とか他の区と比較するというのは、先ほどの例にもありましたがそれもちよっといいのか悪いのかも分からないですね。

そうなると、国で出している数字とか、そういうのを指標にすべきですかね。

この目標値というのも、前のその現状値にプラスアルファ 5%、10%はざっくりとした数字なので、そもそも 10%も上がるのかみたいな話もあると思いますので、今のご指摘の点で言うと、その目標設定がそもそもどうだったのかという話もありますので、何とも言えませんが。かと言って、例えば、60%ぐらいでも良いという項目もあれば、やはり 80%ぐらいめざすべきというのもあるのでしょうけど、それはどうして違うのかというのは、なかなか判断が難しいように思うのですけれど、どう考えたらいいですかね。

○巽構成員

新しく指標にしようという数値の現状がちょっと分からないので、それが分かれば、他のところと比べてみてどうなのかというのを見ながら、どのぐらい上げるのか、現状維持していくのかというのが見えると思います。

○森田座長

そうですね、確かに。ありがとうございます。

他は何かございますでしょうか。どうぞ。

○小西構成員

環境のところ、堺市は街並みがあって実際に満足できるまちだと思いますかという指標に関してですが、私の方でちょっと街並みってどういうものがあるかなと思った時に、どれぐらい管理されているかみたいなものを考えた時に、空き家率とか、あと公園がどれぐらいあるかという意味で、緑の量である緑被率みたいなそういった指標があると、もしかしたら、ごみ以外の観点からも、どれだけ地域の人が、もしかしたら空き家がない方が気持ち的に良かったりするのかなと思うと、そこら辺の指標がこの KPI と重なるところが効果的なところがあるのかなと考えております。

○森田座長

なるほど、ありがとうございます。緑被率はなかなかそんな簡単に変えられないので、ちょっと難しいかもしれないのですが、おっしゃられる意味はよく分かります。

何が良いのでしょうかね、ちなみにそうですね、空き家率というのもありますけれど、外から見てどうなのかというとなかなか分かりづらいところもあるのでしょうか。そういうのを端的に示しているような、今ご指摘があったような点というのは、空き家率が良いかどうかはちょっと分かりませんが、一つは例えばそういう数字みたいなものが把握できるのであれば良いかもしれませんね。

ありがとうございます。

何か他にも、ちょっと思考はあまり固めずに、幅広くと言いますか、別の観点からでも結構ですけど、そもそも数字を拾ってくるのは難しいかと思いますが、言い方は難しいと思いますが、なんかこういうところはこういう言い方をしたいのではないかと思います。ありがとうございます。どうぞ。

○伊藤構成員

これって堺市内でアンケートをとったとおっしゃっていましたよね。ということは、他の区と同じ質問がされているのであれば、中区は其中でワーストなのかハイなのか、そこをもうちょっと知れば、他の区よりは住みやすいのか、まだいけているのかいけていないのかというのも大きな指標の 1 つにはできるのではないかなと思います。

○森田座長

おっしゃるとおりなのですが、区によっては回答の人口構成比率が偏っているところもありまして、簡単に言うと、例えば高齢者層だけが答えているみたいな、ちょっと極端なところもあったりしますので、比較が適切なかと言われると、ちょっと難しい時があったりします。

例えば、逆に言うと、どこの区という言い方をするのではなくて、堺市全体はこのぐらいの傾向で、それに対して中区だけで集計するとこのような感じと、そういう位置付けで見た方が偏りは少し何とかなるので、そういう見方の方が良いのかもしれないですね。

○伊藤構成員

各区でも、同じような議論をしているのですよね。

○司会（大橋）

どこの区も今、次期計画の策定期間ですので、同様の議論をされているかと存じています。

○伊藤構成員

ですよね、他の区の状況を知るという意味では、どこに表示されているかちょっと分からないのですが、参考的な部分で載せていただければ、良いところも悪いところもあると思いますが、またそれを参考にできるのではないかなという素朴な意見でした。

中区だけでというと、どうしても、この子育て・福祉という部分であれば、子育てのその年代別によれば、もう全然回答率も違うでしょうし、他県から引っ越してきたとか、まだ地域に浅いとか、うちの父親も介護をするのに他県からこちらに連れてきたのですが、その時にやはりどこに何を誰に聞いたらいいのか全然分からないところもあったりしました。

まだまだその回答に難しい部分というのがあったと思いますが、かかりつけ医が本当に他県よりは堺市の方がこのかかりつけ医を持ってということと、頻繁に病院行ったら言われるなと気付いたところですけど、そういう意味でも、誰にどう聞いていいのかというか、筋道がもう一つよくわからないところもあり、相談員さんや介護だったらケアマネさんだったり、地域にそれだけ長いこと住んでいたらこの病院はこんなとこがいいよだとか、ここに行ったらこんなことできるよとかというのがあろうかと思いますが、最近引っ越ししてきた人にとっては、その地域に何があるのかも全く分からないと思います。

その人たちに子育てが良いだの、福祉がどうかって答えることもできないという部分はあるのかもしれないので、その充実をもう少し見える化してもらえたら、もっと住み良いまちに近づくのではないかと、そんなこともちょっと思ったりもします。

○森田座長

なるほど、そうですね。そういう意味で言うと、相談を受けた件数みたいなことですかね。

それが高ければいいのかというと、高すぎるのも多分逆の問題が発生している可能性があるのでは何とも言えないところがありますが、ある程度はやはり件数がないと、ちゃんと情報が伝達されていなくて、相談で

きる体制になっていないのではないかという疑義が生じますよね。そういう意味で言うと、適切な相談件数みたいなものはあるのかもしれないですね。

そういうのは、先ほどの話じゃないですけど、他の区と比較、そういう数字は客観的な数字ですので、比較してみるとというのは、良いことなのかもしれません。そういう数字が、記録でそもそも残されているかどうかちょっと分かりませんが、もしあれば、そういうのを見ていただくのも一つの方法かもしれません。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

○松居構成員

先ほど何か数字とか出せないですかという時に、あまり上手く答えられなかったので考えていたのですが、ちょっと今回の計画に役立つものかどうか分からないのですけれど、数値を出せるとしたら、学生ボランティアのことをやっている所なので関わった人の数はいつもとっています。

例で言いますと、地域の清掃活動で、学生は参加者 3 人でしたというのが、次の年になったら 10 人になっていましたとなったりすると、割と関心を持って関わろうとしている人が増えているのかなと実感を持ったりするかなと思います。子ども食堂とか自主的にやっている方々、去年は、例えば 3 団体だったというのが、今年になったら 6 団体、倍になっていると広まっているのかなというイメージを持ったりします。

わざわざ関わろうとしている人たち、自主的にやろうとしている人たちというのは、ボランティアと思いますが、そういう人たちが増えているというのは、ポジティブな印象を受けることが多いのかなと思います。

まさしく区民の方にも、その大切さが広まっているからこそ、関わろうとしている人が増えているというふうにも認識できるのかなと。学生たちの動きを見ていると、同じ活動を毎年続けているのを見ましても、計画のところにも共感と協働と書いていますが、その部分が上手く浸透していないと、やはり活動者と言いますか、関係者が増えていかないのかなというような気がします。その意味で言うと、関係者がこういうふうに変わっていていますというところの数値は一応取れてはいるのかなと思います。それで、そこから傾向と言いますか、どれぐらい認知が広がっているのかみたいな部分があるのかなと思いましたので、コメントをさせていただきました。

○森田座長

ありがとうございます。人数はとても重要な数字ですよね。さらに、ごみとかだとやはり重さを測ってみるとかできるなら、多分それってアピールする時にも使えると思います。これだけ綺麗にしましたというのは、人数で関わったのも重要なのですけれど、やはりこれだけ綺麗にしたというのって、ごみの重さだけじゃないとは思いますが、例えば、そういうことで示すというのもありなのかなということで、もし記録できるようなら記録していただいたら、いろいろアピールにも使えますし、何かの評価に使えるかもしれませんし、良いことなのかなと思います。

とは言え、やるだけでも大変なのに、なかなか記録取るというのも大変だとは思いますが。

ちょっと私もあまり記録をとるのが好きではないのでやらないのですが、もしできることなら、そういうのもちょっとお考えいただけると良いのかなという気がしました。

他は、どの項目でもいいですので、何かこんなものがあるではないかどうかでしょうか。どうぞ。

○田重田構成員

すみません、度々失礼します。この指標の調査をそもそもの目的で考えた時に、意識調査の意識の変化を持って各分野別要素の達成度を測りますと書かれているのですが、意識が上がったというのは、満足度が上がったという観点と、人の意識が変革したとかという観点があるのかなと思いました。

例えば、歴史文化で、文化芸術活動しやすいまちだと思いますかというのは低い数値で、しやすいと思っていないということです。これは取組やその政策とかで上げていくものかなと思いますが、ここで文化活動とか芸術活動をしたいと思いますかみたいな聞き方だと、ちょっと人の意識が変わっているという観点になると思います。他の指標でも一緒だと思いますが、子育ても、子育てがしやすいかどうかというのはある意味受け身で、こういうサービスがあるから子育てしやすいと思うけれど、ここで子育てしたいと思いますかというのはそこに住んでいる人の意識であったり、地域性みたいなところで、その地域の質がいいから、ここでは子育てをしたいと思う、だから子育てがしやすいまちにつながっているという、そういうところにつながっていくのかなと思います。ですので、指標の取り方を取組の改善に活かしたいと思うのか、ここで言う、中区のめざす将来像に近づけていきたいというところをめざすのかによって、指標の取り方というのは変わってくるのかなと思いました。それをどこに持って行きたいのかというのを定義するところから考えると良いのかなと思いました。以上です。

○森田座長

ありがとうございます。

そうですね、そういう意味では、やはり本当は独自に取るべきだなという気もしますが、いろいろな事情があるのかもしれない。

○田重田構成員

認知度の調査とかもしたら良いのかなと思いました。例えばこれ堺市全体なのでなかなか個別のことを書くのが難しい事情があるのかもしれないですけど、子育ての施策がこれだけあるけれども、そのうちどれを知っていますかみたいな、知らないから満足度が低いとか、知っているけど満足度が高い、低いとか、その辺も見えてくるのではないかなと思います。

○森田座長

そうですね。

○田重田構成員

交流とかもそうですね。こういうことをやっていることを知っている、祭りとかを知っているとか、そのイベントがあるのを知っているとか、知らないのであれば、ちょっとPRが足りないとか、啓発活動が足りないとか、その辺が分かってくるとしますので、どこが足りないのかを知って次の指標のアップに活かしていくという。

○森田座長

そうですね、なかなか難しいところですけど、市がやっている調査であるというところを利用せざるを得ないというか、そういうところが結構いろいろな問題点をはらんでいる部分もあるのかなと、その質問をこっちに変えた方が良いのかというのも多分ご指摘どおりかと思います。多分、例えばその子育ての何か政策をすると、堺市がやっている政策と中区でやっていることはちょっと違う場合もあって、それは他の点についても多分いろいろそういう点はあって、そういう意味で言うと、なかなかちょっと難しいところがあるのかなという気がしますね。

○田重田構成員

見直しのタイミングで、堺市全体の数値を使うのではなくて、中区独自の調査をしますというふうに変え

るとかはできないのでしょうか。

○森田座長

どうなのでしょう、ちょっとそれは多分仮に聞いてもすぐには答えられないと思いますので、そういう意見はあったということをお聞きしておいて、ちょっと検討してもらおうということにさせていただきます。

○田重田構成員

仲氏さんがおっしゃったように地域性も結構出ると思います。中区の中でも、駅前のエリアと東山とか結構駅から遠いエリアとでは、全然意識が違ったり、区だけの属性情報だったりすると、一緒になってしまうかなと。もっと深井水池の地域とか、深井畑山の地域とか、そこぐらいまで見えたら、良いのかなと思います。

○森田座長

そうですね、この調査を使わなければならないのか、変えられるのかどうなのか、何とも申し上げられないところがありますが、仮にこれがこのままだったとしても、だからこそ、先ほどからお話が出ているような、客観的な数字みたいなものが、この地域の数字をなるべく拾って、それと一緒に見るというようなことを考えた方が早いかもしれません。

もちろん、指標と今書いているところも、変えることができるのであれば変えるというのが一つの方法でしょうし、少なくとも客観的な数字については、この辺の特に地域にできるだけ根ざした数字を拾ってこれるものを使ってみるというところは重要なポイントなのかなという気はいたします。

そういうのを両面から見ないと、なかなか評価というのは難しいのかなというのは、これは皆さん多分思っていることだろうと思いますので、ちょっと要検討していただければと思います。

ありがとうございます。

他は何かございますか。どうぞ。

○桂構成員

先ほど、他の区でも、今、計画段階であるみたいなお話があったと思いますが、KPI の設定と言ったところは他区であったり、あるいは他の市町村でも行われているのだとしたら、そういったものも参考にして、良い指標がないかなというのを探してみるというのも、単純な話ですが、良いのかなと思いました。

今議論して難しいというところになっていると思うのですが、他の区や、他の市町村でも、悩みながらやっているとは思いますが、その中でいろいろな指標というのが多分取り入れられていて、その中で何か良いものがあれば、良いのかなと思いました。

今回の議題に関しては、中区の独自性を出さなきゃいけないというよりは、とにかくこの評価というのを正しく行えるようなものがあれば良いということですので、中区だけで何かこだわることもなくて、他の市町村など参考にできる議題ではあるのかなと感じました。

○森田座長

そうですね。他所のやり方で良い点があれば、取り入れるというのはご指摘のとおりだろうと思います。

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

大体時間も差し迫ってきましたが、最後に何かこれだけは言っておきたいという方がいらっしゃればご発言いただければと思いますが、大丈夫ですか。皆さん。よろしいですか。

では大体の方向性としては、皆さん同じような思いを持っていらっしゃるということがよく分かりましたし、

やはり指標的なものとしては、今見てるだけではなかなか分からない点もありますので、他にですね、ぜひ客観的な数字等も見ていただいて、より細かといいますか、より適切な評価ができるように改善していただければというような方向だったのかなと思いました。

ありがとうございます。

本日は構成員の皆様からいろいろ活発なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。事務局におかれましては、本日、構成員の皆様からいただきました様々なご意見を今後の計画策定や区政運営に活かしていただきますようお願いします、これで本日の議案を全て終了いたしました。

本日の議案、あるいはそれ以外でも何かご意見ご質問ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

議案内容に関する意見がございましたら、遠慮なく事務局へ申し出ていただければと思います。それでは司会をお返ししたいと思います。

4 閉会

○司会（大橋）

皆様、活発なご意見の交換、ご提案いただきまして、どうもありがとうございました。閉会にあたりまして、中区長よりご挨拶を申し上げます。

○区長（伊藤）

皆様、長時間にわたりまして、活発なご議論いただきましてありがとうございます。大変貴重なご意見をいただいておりますので、我々も今日の意見につきまして、検討させていただき、どういことができるかということも考えさせていただきながら、策定に向けて取り組んでいきたいと思います。構成員の皆様におかれましては、引き続きのご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。

○司会（大橋）

一点報告事項がございます。

今年の2月に開催いたしました令和6年度第2回の本政策会議におきまして、皆様の方からいただきましたご提案のうちの一つで、区役所内へのおむつの自動販売機の設置がございました。このおむつの自動販売機の設置についてですが、この度、6月2日に地下1階エレベーターホール前に設置予定となりますことご報告いたします。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第1回堺市中区政策会議を閉会いたします。構成員の皆様におかれましては、会議の開催に当たり、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。